

2023 年度第 2 回渥美半島野生イノシシ捕獲根絶協議会 会議録

1 日時

2023 年 10 月 25 日（水） 書面開催

2 出席者

渥美半島野生イノシシ捕獲根絶協議会 構成員

3 議事

(1) イノシシ捕獲に係る取組状況について（資料 1-1、1-2、1-3）

発言者	意見・コメント	回答
東三河農林水産事務所 田原農業改良普及課	資料 1-1 と 1-3 の捕獲頭数の違いについて説明が欲しい。 (1-3 の「東三河地域」は豊川市と蒲郡市を含むのか不明。)	資料 1-3 に、各地域がいずれの市町村を含んでいるか明記します。
東三河農林水産事務所 田原農業改良普及課	資料 1-2 の「渥美半島」とは、どの地域を示すのか説明が欲しい。(田原市のみか、資料 2 に記載のとおり豊橋南部を含むのか不明。)  →「渥美半島」の定義等、記載方法を資料全体で統一して欲しい。	資料 1-2 の「渥美半島」は、田原市・豊橋市であることから、その旨が分かるように修正します。 今後、資料のデータが「田原市+豊橋市」か、「田原市+豊橋南部」か分かるよう明記していきます。
自然環境課	田原市の有害捕獲と指定管理鳥獣捕獲等事業の捕獲頭数について、2020 年度から 2022 年度にかけて、一方が減少した際にはもう一方も減少し、一方が増加した際にはもう一方も増加するなど、増減の変化が同じ傾向を示していた。しかし、今年度については、昨年度同時期と比べ有害捕獲の捕獲頭数が急増している一方で指定管理鳥獣捕獲等事業の捕獲頭数は減少しており、これまでと異なる変化が見られる。考えられる要因はどのようなものか。	田原市における指定管理鳥獣捕獲等事業は、事業を開始した 2020 年度から 2022 年度までの間、くくりわな、箱わな及び巻き狩りといった手法により捕獲事業を実施して参りました。 2023 年度は、これらの手法のうち、箱わなを移動式囲いわなに変更して実施しています。これにより、以前の手法では捕獲されなかった個体へ一定の捕獲圧をかける事に成功していると考えられます。しかしながら、移動式囲いわなはある程度の設置空間を要する事から、これまでの箱わなと比べ設置基数が少なくなっており、指定管理鳥獣捕獲等事業全体として捕獲頭数が伸びていません。

自然環境課	<p>2023年度第1回の渥美半島野生イノシシ捕獲根絶協議会の資料1では繁殖可能な個体の判定のため、捕獲したイノシシの歯列による年齢査定を実施し、その結果を示されていた。</p> <p>今回、整理いただいている妊娠可能と考えられる30kg以上のメスについて、上記の歯列による年齢査定の結果は、どのようになっているか。</p>	<p>30kg以上のメスについて、2021年度及び2022年度の歯列調査結果について、各年齢の捕獲頭数を本議事録の【参考】に示します。</p> <p>結果を見ると、0～1歳で30kg以上となっているメスが一定数います。これらは1歳になる前に妊娠可能と考えられる体重を上回っていることから、田原市・豊橋市では、通常よりも早い段階で妊娠可能となる個体が存在する可能性があります。</p>
豊橋市役所産業部農業支援課	<p>捕獲状況について、豊橋市では豚熱発生前の状況に戻っている。また、田原市でも捕獲数が前年度と比べ大きく増加していることから、豚熱の影響はほとんどないと考えられる。この状況の中、捕獲個体の血液検査はいつまで実施する予定でしょうか？</p>	<p>豚熱が存在しないことの証明は理論上不可能であるため、国の清浄化宣言を待つこととなります。捕獲状況から清浄化の判定は不可能だと考えられます。国内で依然として陽性個体の確認が続いており、愛知県内でも散発していることから、豚熱の血液検査は当面の間継続されると見込まれます。</p>

(2) 渥美半島野生イノシシ生息調査(速報)について(資料2)

発言者	意見・コメント	回答
	意見・コメントなし	

(3) その他

発言者	意見・コメント	回答
自然環境課	<p>資料1-3について、野生イノシシの豚熱の陽性が確認された後、いずれの地域も捕獲頭数が減少しているように見受けられる。新城設楽地域では、3年ほど陽性個体が確認されていないが、2022年度と比べ2023年度(速報値)の捕獲頭数が減少しているように見受けられる。考えられる要因はどのようなものか。</p>	<p>捕獲頭数は年変動が大きく、現時点では要因を推察する事は困難ですが、東三河地域を除き全県的に減少傾向にあるため、今後の推移に注視するとともに、原因の考察が必要と考えます。</p> <p>また、新城設楽地域の地元自治体に確認したところ、昨年度と比べ、イノシシの目撃情報や捕獲従事者数に大きな変動は無いとの事です。</p>

【参考】30kg以上のメスの歯列調査結果について（2021～2022年度）

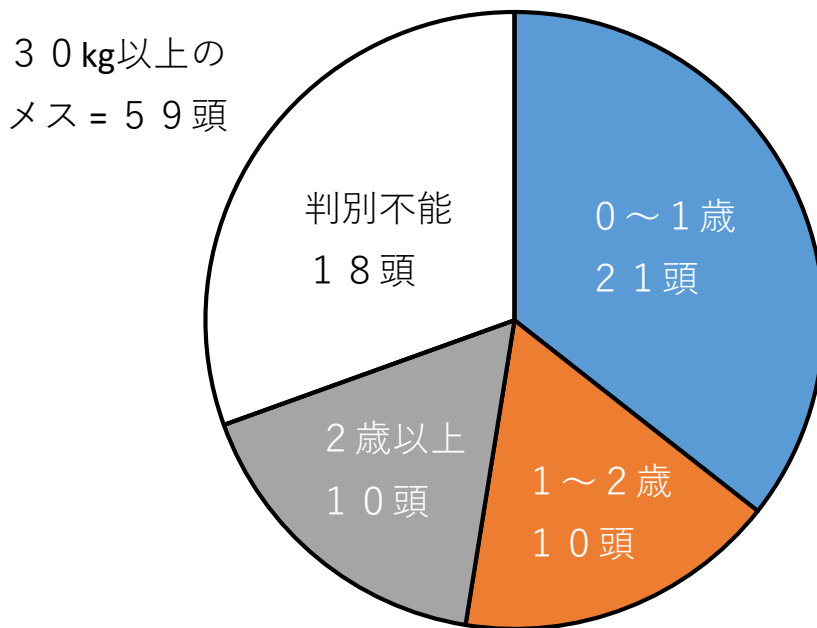


図1 30kg以上のメスの歯列調査結果（2021年度）

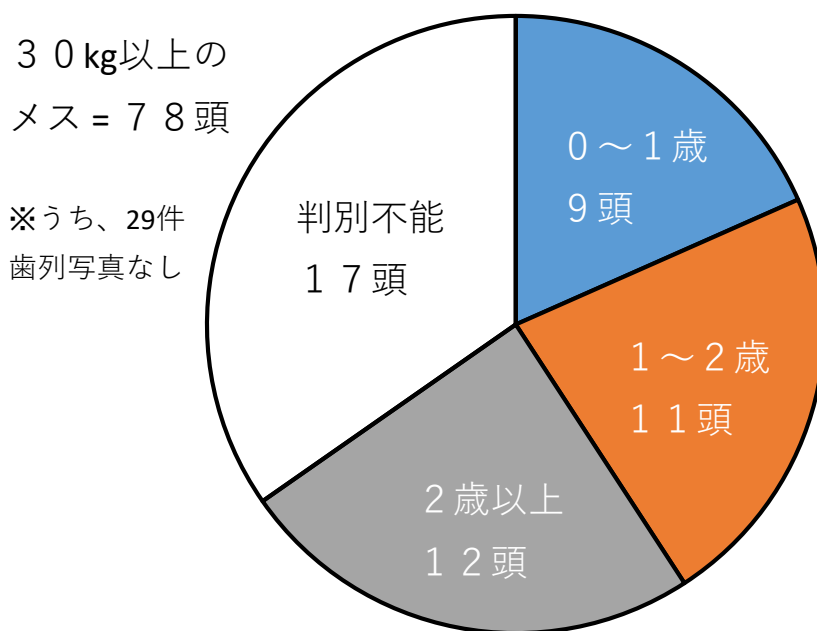


図2 30kg以上のメスの歯列調査結果（2022年度）